

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2775502418		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホーム桜ヶ丘		
所在地	大阪府八尾市桜ヶ丘1丁目20番地		
自己評価作成日	平成 23年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 4月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2775502418&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 3月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの個性を大切に、居心地良く安心して住み続けられる場所となることを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元出身の理事長が社会福祉法人を設立して運営するグループホームです。駅近くの便利な市街地にありながら、近くに2つの公園、隣接地に広い野菜農園のある静かな地区に立つモダンな外観のホームです。室内は広く開放的で、ソファやベンチのある場所からは、大きな窓越しにベンチのあるポーチや菜園、隣接の広い野菜農園が見渡せ、食卓や壁には利用者が職員と一緒に作った素敵でカラフルな季節のアートフラワーが飾られ、ピアノやキーボードなどもあって、気持ちよく寛げる共有空間になっています。管理者と職員のチームワークにより、利用者本位の質の高いケアを目指しています。職員の優しい心遣いと医療面での適切で十分な配慮のもと、利用者には会話があり、生き活きと笑顔のある生活をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだ十分ではないが、グループホームの役割を繰り返し説明し職員の理解が深まるよう努めている。	『家庭的な雰囲気の中で利用者の個性を生かし、「自由」「尊厳」のある日常生活を過ごせるよう、継続的に自立支援を行います』をホームの理念としています。定例のフロア会議や毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の人たちと共に支えています。	全職員が話し合っ共有できる地域密着型サービスの意義をふまえた表現を盛り込んだ事業所理念を作り、理念に沿った介護サービスの実践に取り組み、利用者がより安心して楽しく過ごせるよう家族、地域住民と共に支えていかれてはかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域環境の特性もあり、地域との接点や交流の機会はまだ限られたものになっている。	地域の人達との交流が拡がり、毎日の散歩で近隣の人と挨拶をしたり、ホームに隣接している野菜栽培の農園主から野菜をいただいたりしています。また、ピアノ演奏やバイオリン演奏、落語や安来節、南京玉簾などの伝統演芸、マッサージ、外出など、多くのボランティアとともに利用者は楽しんでます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	積極的な取り組みはできていないが、地域の方や一般の方の相談も受けられるよう建物の外部に案内を掲示している。また、見学の受け入れや入居相談の際、できるだけ幅広くアドバイスが行えるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの現状をしっかりと伝えることを重視し、参加者の意見・評価並びに提案をホームの改善に役立てていくよう努力している。	運営推進会議は市担当職員、民生委員、家族の参加のもと、おおむね2ヵ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や行事、利用者の生活ぶりの報告を行い、看取りを実施したことや職員の努力で利用者の入浴と散歩の回数が増えていることなどについても話しています。	運営推進会議での情報や意見の交換をより充実させるため、自治会代表・老人会代表・女性会（婦人会）代表などをはじめとする地域組織の代表の参加を呼びかけてはいかがでしょうか。また、今後は災害時の地域との協力体制や、地域との交流の深め方についても話し合われてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上重要なことについては、その都度市の担当職員と相談を行い、適切なアドバイス等を受けながら事業運営を行っている。	市の担当職員には、必要の都度相談や情報交換をし、事故報告書や運営推進会議、外部評価結果などを報告しています。市の地域密着型サービス事業者連絡会にも参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等の場において、身体拘束のないケアの実現のため、実際のケアの在り方および環境面などの問題点を提起し、改善の方向を探る努力を行っている。玄関の電子錠については、現在も改善の方向を検討中である。	身体拘束のないケアを目指しています。しかし、現在利用者の中に外出願望の強い方がおり、見守りと付き添い、散歩だけでは対応できないため、玄関に通ずるフロアドアに施錠している状況です。	利用者や家族への心理的拘束感を軽減するため、安全面に配慮しながら、日中の可能な時間帯だけでも鍵をかけないようにする工夫を検討し続けるよう努力することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において学ぶ機会を設ける。 他の職員の目の届かないところでの利用者虐待が起こらないよう、職員教育と合わせて働きやすい環境づくりに勤める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	援助を必要としている入居者の方へは適切な援助が受けられるよう事業所としての支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図って要る	契約時には、時間をかけてひとつひとつの項目を説明し、納得・同意を得たうえで契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への利用者家族の参加を依頼し、家族が、直接、参加者に意見を伝える機会をつくっている。また、常時意見箱を設置しており、投函されたものは、管理者が責任をもって対処するようにしている。	家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。また、家族とは介護計画作成時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるようにしています。意見箱も設置しています。	今後は更に、家族とのコミュニケーションを深めるため、家族との面談や、家族も参加する行事を増やすことを検討されてはいかがでしょうか。また、それぞれの家族には毎月、ホームの連絡事項や行事等の報告とともに、利用者の生活状況・身体状況・受診状況等について知らせる「便り」を発行されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね月に一回の割合で開催するフロア一会議に管理者も出席し、運営に関する意見を聞く機会を作っている。また職員から出された意見・要望等については、検討の上、返答している。	職員とは定例のフロア会議や毎日の業務のなかで、業務の改善課題や行事の企画などについて話し合っています。しかし、職員の研鑽、ステップアップのための研修について、具体的な計画が立てられていない状況です。	職員の研鑽のための外部研修や内部研修、地域のグループホームとの相互交流研修など、計画的に実施できるよう検討されてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事への意欲や責任感等日常の勤務を通して、ひとりひとりの仕事を把握し、待遇の改善などに反映させている。また、個々の家庭事情に配慮した勤務シフトを作成するなど、働きやすい環境づくりを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修機会は多数あるが、慢性的に人員の余裕が無く、機会を利用できていない。内外での研修機会をつくり、また、他施設見学等の機会を持つことで、介護職員のスキルアップを進めていく計画である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、計画中である。他の事業所との交流の必要性は理解できるが、機会がないため、独自で接点を作り情報交換から始めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や相談等にあたるものを固定し安心と信頼が作りやすい環境をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱える不安や心配ごとを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の現況を把握し、当ホームの利用以外のサービス利用も含めできるだけ適切なアドバイスが行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が介護される者とする者という関係になってしまわないように、本人の意向や力を活かした生活づくりをめざしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームへの入居により、家族と本人の絆が切れたり細くなってしまわないように、介助者が仲介役となって、よい関係が保てるよう援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来られてゆっくり過ごされたりすることは歓迎している。出かけるにあたって、職員の手不足もあり、十分な援助が行えないため、家族の協力を仰いでいる。	以前ホームに入居されていて他の施設へ移られた方を、利用者の希望で、定期的に職員と一緒に訪ねるなどして、馴染みの人との関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者相互の人間関係づくりが円滑に形成できるよう、それぞれの性格等を考慮し職員が仲介役を果たしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする援助は、契約終了にかかわらず、できるかぎりおこなっていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの今までの暮らし方や今後への思いを理解し、利用者本位の援助ができるよう努力している。	職員が協力してセンター方式の「私の姿と気持ちシート」を完成させ、利用者の希望や意向を把握し、毎日のケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもとより家族等の身近な人から必要な情報を収集し、今後の生活に活用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の様子に加え、色々な場面に現れる特徴などをつかみ、適切な援助が行える材料としている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	直接ケアに従事しているスタッフの意見等を聞きながら、介護計画を作成している。また、家族等本人の身近な人からも意見・要望を伺い、本人へのよりよいケアが行えるようにしている。	介護計画は3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。毎月カンファレンスを開催し、計画作成担当者は3ヵ月毎にモニタリングを行い、家族の意見も聞いて介護計画の見直しにつなげています。	介護計画の個別の援助項目を職員に徹底するとともに、職員によるモニタリングの定期的実施が望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に利用者一人ひとりの援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録する方法を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきを記録に残し、本人の変化の情報を共有することで、ケアの改善などにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援の必要なことについては、無理のない範囲で、できる限りの援助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ限られた範囲でしか資源の利用はできていない。施設外への生活の広がりをつくるための工夫が不足している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族に主治医を選定していただき、定期的な往診を受けるようにしている。総合病院での高度な検査等の必要な場合は家族と主治医と事業所の三者で相談・協議しながら決めている。また、場合によっては、家族に代わり外来受診の援助も行っている。	利用者それぞれのかかりつけ医による往診医療と、医療連携している訪問看護師による訪問看護を受けています。診療科目によっては、入居以前のかかりつけの医療機関への通院介助をしています。協力医療機関と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期的な訪問看護があり、利用者の状態を伝え必要な指示等の援助を得ている。また、看護師を通して、医療機関への受診に関するアドバイスを受けたり、日常生活上の注意を受けたりして、利用者の健康管理に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時における情報の提供や退院時における受入準備のための情報収集などにおいて、医療機関および主治医とは協力関係を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点から家族。本人と看取り等について説明を行っている。また、実際に疾病等により状態の変化がみられる場合も、本人・家族と主治医および施設職員とで協議しながら、在り方をきめるようにしている。	利用者と家族には入居時にホームでの看取り実施の方針を伝え、意向の確認をし、看取りの実績もあります。利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有し対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフルームに常時手順書を掲示し、すぐに確認できるようにするとともに、救急時の対応方法を学ぶ機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を中心に、定期的に訓練を行っている。マンション群の中に位置していることもあり、地域との関係が作りにくい状況にある。	災害に備えるマニュアルを作成し、夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施し、内1回は消防署の指導のもとで行っています。災害時の飲料水と食料品の備蓄についても実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して、人格やプライドを傷つけるような言動については、特に厳しく注意している。対人援助における最も重要なことなので、日頃の利用者の方への姿勢を気をつけて指導している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が、先回りして決めてしまうのではなく、利用者自身が自分のしたいことを決めたり、思いが伝わるように、ゆっくりとかかわることを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先や職員主導の傾向を修正し、ひとりひとりの思いに寄り添えるような気持ちと時間に余裕をつくる努力を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を自分で選んだり、外出時の服装も自分で決めたりするよう援助している。理美容も本人の選択を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲で、調理や片付けなどに関わって頂き、上げ膳据え膳にならないよう配慮している。また、食事やおやつは、職員も同じテーブルで同じものを食べながら、食事が楽しくなるよう工夫している。	業者から取り寄せた食材を職員が調理しています。利用者は野菜の下ごしらえ、食事準備、調理、後片付けなどの得意な分野で分担しながら参加しています。職員は利用者と同じ物を食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するさりげないサポートや和やかな雰囲気作りに努めており、利用者同士の会話もあります。利用者の誕生会の日には好みのメニューとなり、利用者も買い物から調理まで参加し楽しんでます。誕生会のケーキは職員が手作りしています。行事に合わせた外食もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに適した食事量や形態で提供できるようにしている。また、その日の体調なども考慮し柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあとには、必ず口腔ケアを行い、清潔に保つよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、できるかぎりオムツの使用はおこなわないようにしている。必要な介助は行うが、不必要に手を出しすぎないよう気をつけている。	排泄の記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握して、声かけや前誘導を確実に行うことで、リハビリパンツや布パンツでの生活が維持できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の活動が増えるように、役割を持ったり楽しい時間を過ごせる工夫を行っている。安易に下剤に頼らず、自力で排便が行えるように注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の機会は、従来の週二回から、平均週三回になっており、全介助の方も浴槽内に入り、ゆっくり入浴を行っている。ただし、時間帯については、勤務体制の都合による制約はある。	利用者は、平均して週3回入浴するようになっています。毎日入浴する利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣等を考慮し、安心して睡眠がとれるよう環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬内容が分かりやすいように個別カードにまとめている。ひとりずつ確実に服薬していることを確認しながらおこなっており、もれや間違いのないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方が、退屈したり無気力にならないよう、生活の中での役割をもったり、楽しい企画をたてたりして工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝、公園への散歩にでたり、買物で近くのスーパーなどへ行く機会は、以前より増えている。また、ボランティアの協力を得て、ゆっくり外出を楽しむ機会をつくっている。まだまだ不十分ながら、徐々に個々の希望に添えるよう改善努力を続けている。	以前より散歩の機会が増え、ほぼ毎日近隣の公園やスーパーに出かけています。また、個別外出にも取り組み、外出ボランティアの支援を得て、大規模ショッピングセンターで少し長い時間をかけての買い物やウインドウショッピング、お茶などの気晴らしができるようになっていきます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物などの機会を利用し、レジでの支払いを行うなどの機会をつくっている。日常的な金銭の所持や管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から電話をかけたたり手紙を出したいとの希望があれば、援助して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂での個々の差席は決めているが、食事以外の時間では自由に移動し利用していただいている。トイレや脱衣室の温度管理にも配慮し快適に使用できるように配慮している。一階では自由に庭に出て草花や野菜を育てることができる。心地よい風にふかれながら、お茶を飲むこともある。	駅近くの便利な市街地にありながら、ホームの近くには2カ所の公園、隣接地には広い野菜農園のある、静かな地区に立つモダンな外観のホームです。室内は広くフロア入口から見通しが良く開放的になっています。ソファや畳式ベンチのある場所からは、窓越しにベンチのあるポーチや自前の菜園が見え、隣接の広い野菜農園も見渡せる寛げる居場所になっています。食卓や壁には職員と一緒に作ったカラフルで素敵な季節のアートフラワーが溢れ、ピアノやキーボード、絵画、レクリエーション道具もあって、家庭的で落ち着いた共用空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用しやすい配置でソファを設置するなどして、思い思いの場所ですごせるように配慮している。利用者のひとりひとりが、どのような場所を好まれるかを把握し、気持ちよく過ごしていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ本人の使い慣れた家具等の持ち込みを推奨している。本人にとってね快適な空間になるよう、清潔面の他、ベッドの向き、福祉用具の利用、写真の掲示や小物などで個々の居室を演出している。	居室の外には季節のアートフラワー、立派な手書きの表札がかかっています。広い室内には利用者が持ち込んだベッド、ソファ、整理ダンス、机、椅子、装飾品、家族の写真、テレビ、時計、作りかけのパッチワークの布があり、外出用の服や帽子が掛けていて、利用者が安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの状態に応じて介護ベッドや福祉用具の利用などを行い、安全で本人に使いやすい環境づくりを行っている。また、自分の部屋が認識しやすいように、名前を大きくしたり目印をつけるなど工夫している。		